

2017.03.19

桑山 昭

「ラオス・ビエンチャンにおける障害児支援協会(ACDA)への贈呈式報告」



ラオス・ビエンチャンの障害児支援協会(ACDA:Aid Children with Disability Association)への90台の車椅子の贈呈式をビエンチャン市内の社会福祉省の施設市民団体交流ネットワークセンターLao Civil Society Organization Network (LCN)の会議室において開催した。当日の会場には、ラオス政府の社会福祉省や関係省庁の幹部を招き、車椅子を受け取る子どもとその家族など 60 名程度が参加して盛大に行われた。



来賓席で紹介を受ける要人



会場に集まった子どもたちとその家族

贈呈式の冒頭、NPO 法人 ACDA の会長である Somphet AKHAVONG 氏の挨拶で始まった。会長は挨拶の中で以下の内容を述べた。

同会は、これまでも障害のある子どもたちを支援してきた。その支援は多くの寄付から成り立っている。今回、日本から贈られる車椅子によって、子どもたちは学校や病院、作業場への移動が楽にできるようになり、また日常的に正しい座位を保つことができるので筋肉や骨の強化につながる。そのことで子どもたちは、心と体の両面の健康を持つことができるようになる。

今日は、日本から贈られた90台の車椅子の内20台を用意している。それを今日集まっている子どもたちに手渡したい。残りの70台についても、後日子どもたちに届けたい。こうして日本から贈られた車椅子は、大切に使うこと、故障したら同会に知らせること、また子どもの体に合わなくなったら同じように同会へ知らせることをお願いした。

会長の挨拶のあと片野理事がスピーチを行った。スピーチの中で、日本における子ども用車椅子の現状と我々が子ども用車椅子を海外に届けるようになった背景について説明を行った。そして、車椅子を大切に使ってほしい、合わなくなったら次の子どもに渡してほしいとお願いした。



スピーチをする片野理事



会場となったラオ市民社会ネットワーク交流センター

続いて、社会福祉省の障害局長であるセンアローン氏の挨拶があった。当会への謝辞を丁寧に述べていた。

そして、用意した20台を会場に集まった子どもたちに1台ずつ手渡した。そこでは、子どもの体にフィットしているかどうか確認をしながら贈呈した。体に合わない場合は用意された20台の車椅子の中から選定しなおして贈られた。



車椅子に座ってみる子どもと見守る家族



車椅子を受け取り喜ぶ子どもと両親



贈呈式の中で、感謝状の盾が手渡された。



贈られた感謝状の盾



これで勉強ができると早速テーブルを使ってみる



車椅子に乗って嬉しそうに自在に動き回る子



片手が不自由なため車椅子を右手だけで操作する子



車椅子を受け取り喜ぶ親子



贈呈式を終え帰宅する車椅子の親子



今回の贈呈式のために用意された横断幕

以上

ワークショップ

次に、実際の車椅子を使用してのワークショップを行った。ACDA のスタッフ(本人もハンディを持っている)に車椅子の整備のポイントを教えた。空気の入れ方、虫ゴムの交換方法、ペダルの位置合わせの方法など、簡単な内容だったが、持って行った工具を使って実際に整備を行ったのでよく分かったと感謝の言葉をもらった。



ペダルの位置合わせを行う。



ワークショップで使用した工具を担当のスタッフに手渡した。彼はこの後の家庭訪問で手渡した工具を持ってきて、訪問先でその工具を使いながら車椅子の調整をしていた。

以上

日本大使館表敬訪問

3月9日、11時から日本大使館を表敬訪問した。応対に出てくれたのは、贈呈式にも参列してくれた林田さんである。片野理事から、ラオスへの寄贈は2回目であり前回の寄贈でも大使館の人にお世話になったことの説明や、今回の贈呈式参列へのお礼を述べた。下記の具体内容を詳細に説明した。

1. 当会からACDAへの車椅子の贈呈後の状況調査(モニタリング)の依頼について

準備した調査票を見せて、6か月後及び2、3年後にACDAにて責任を持って実施することを説明した。

2. ACDAについて

ACDAが展開している車椅子贈呈以外の障害児への支援活動について、初日に会長から聞いた内容を林田氏に紹介した。

3. ワークショップの実施報告について

贈呈式の後で、実際の工具とマニュアルを見ながら簡単な車椅子整備についてワークショップを行った。特に重要な、タイヤの空気の入れ方、虫ゴムの交換方法、ペダル位置の調整方法について体験を含めて紹介した。ワークショップ後には、日本から持参しワークショップで使用した工具を担当者に贈呈すると、非常に喜ばれたことを含めて林田氏に報告した。

4. ACDAスタッフの日本研修の費用負担方法についての意見交換

ACDAがスタッフの技術レベルの向上のために日本への技術研修派遣を希望している。その渡航費用をN連の事業計画の中に含んで提案をすれば、認可される可能性があるかもしれないと助言があった。

以上

現地新聞報道(ラオス語)

Vientiane MAI Newspaper 2017.3.10

**ຄົນພິການທາງສະໝອງ
ໄດ້ຮັບການຊ່ວຍເຫຼືອ**



ຄົນພິການທາງສະໝອງ...

ກມອາສາສະໝັກສົງອອກ
ລ້ຽວນັ້ນຕາງປະເທດຂອງຍີ່ປຸ່ນ
ໄດ້ນຳເອົາລ້ຽວນັ້ນ ຈຳນວນ 90
ລ້ຽວ ມອບໃຫ້ແກສະມາຄົມຊ່ວຍ
ເຫຼືອເດັກນ້ອຍພິການລາວ, ເຊິ່ງ
ພິທີມອບ-ຮັບ ເຄື່ອງດັ່ງກ່າວຈັດ
ຂຶ້ນວັນທີ 7 ມີນາ 2017 ຢູ່ທີ່
ເຮືອນຮັບແຂກກະຊວງແຮງງານ
ແລະ ສະຫວັດດີການສັງຄົມ
ກ່າວມອບໂດຍທານ ກາຕາໂຕ
ໂຕໂມຢກີ ປະທານອົງການກມ
ອາສາສະໝັກສົງອອກລ້ຽວນັ້ນ
ໃຫ້ເດັກນ້ອຍພິການຢູ່ຕາງປະ
ເທດ ກ່າວຮັບໂດຍທານ ສົມເພັດ
ອັກຄະວົງ ປະທານສະມາຄົມ
ຊ່ວຍເຫຼືອເດັກນ້ອຍພິການ ມີຜະ
ນັກງານ-ວິຊາການກຽວຂອງ
ສອງຝ່າຍເຂົ້າຮ່ວມ.

ສຳລັບລ້ຽວນັ້ນນຳມາຊ່ວຍ
ເຫຼືອຄົນພິການ ກມອາສາສະໝັກ

ກອບສ່ວນຊ່ວຍເຫຼືອລັດຖະບານ
ລາວ ໃນການເບິ່ງແຍງຮັກສາ
ເດັກພິການດັ່ງກ່າວ ທາງກມອາ
ສາສະໝັກ ຈຶ່ງປະສານສົມທົບ
ກັບລັດຖະບານ ກໍຄື ກະຊວງແຮງ
ງານ ແລະ ສະຫວັດດີການ-ສັງ
ຄົມ ເພື່ອນຳເອົາລ້ຽວນັ້ນມານຳ
ໃຊ້ໃຫ້ເກີດປະໂຫຍດສູງສຸດ
ເນື່ອງຈາກວາລ້ຽວນັ້ນ ແມ່ນມີ
ຄຸນນະພາບດີ ແລະ ຕອບສະໜອງ
ໄດ້ຄວາມຕ້ອງການຂອງເດັກ
ນ້ອຍພິການທາງສະໝອງທີ່ມີຈຳ
ນວນ 100 ກວ່າຄົນ ຈາກ 600
ກວ່າຄົນຂອງຈຳນວນຄົນພິການ
ທັງໝົດໃນຂອບເຂດທົ່ວປະເທດ
ໄດ້ເປັນຢ່າງດີ.

(記事の概要)

記事の見出し:「脳障害の子どもたちへの援助」

内容:障害児支援協会(ACDA)に車椅子が90台日本から贈られた。これらの車椅子は日本で3年程度使用済だが、まだ十分に使えるものである。日本で新品を購入すると2,000~3,000ドルするものであり、子どもに使い勝手が良いように一台ずつ個別のデザインがなされている。これらの車椅子は、ラオスの脳障害の子どもたちの要求に応えるものである。

現地新聞報道(英語)

Vientiane Times 2017.3.8

4 | Home news | Wednesday March 8, 2017

Support still needed for children with disabilities

Phetphoxay Sengpaseuth

The Aid Children with Disability Association (ACDA) says that even with the advent of recently donated wheelchairs, it is still in need of support to improve access to better health and education standards for children with disabilities.

Wheelchairs that specifically benefit children with disabilities (CWDs) aimed at promoting their independence is part of the association's ongoing support for CWDs which also provides a platform for greater children's rights as well as both gender and disability equality, an official said.

The president of the ACDA, Mr Somphet Akhavong told *Vientiane Times* shortly after yesterday's handover ceremony for wheelchairs donated by the Volunteer Group to Send Wheelchairs to Overseas Children's, Japan (VGSWOC) that the chairs would go towards helping CWDs across the country including those children with brain injury disabilities in target provinces.

He said that for several years the ACDA and its partners have been helping disabled children reach their educational and developmental potentials by providing opportunities for them to study alongside other children at school.

These wheelchairs will support schools, clinics and work places, by helping to keep their user's muscle and bones in the right position to improve both their physical and spiritual health conditions, he added.

The president of VGSWOC, Mr Katano said about 90 children's wheelchairs have been donated to



Mr Somphet Akhavong (right) shares his gratitude for recently donated wheelchairs.

CWDs in Laos for free which is also through assistance from the Japanese government to our NGO.

He said, "We have now provided more than 6000 wheelchairs as free donations to children in 23 countries in the world including Laos."

The Japanese children's wheelchairs are designed for CWDs mainly with cerebral palsy and other brain trouble as the medical equipment is made according to these children's conditions specifically. And they are very expensive, costing almost US\$2000 to US\$3000 per unit, he added.

However, the Japanese government has been subsidising 90 percent of that cost to parents of CWDs under its social welfare policy.

Mr Katano explains that the NGO collects the wheelchairs from Japanese parents whose children no longer use the wheelchair and

refurbishes them to a good condition that is both safe and durable.

According to the ACDA, their aim is to ensure that CWDs receive a quality education with a view to enabling their education continuum throughout all levels, from primary school to secondary school and in the future to vocational school.

The association says that many of the CWDs in Laos are also living in poverty and have limited opportunities in accessing education and those that are in inclusive schools are at high risk of dropping out.

The ACDA has branches in the capital as well as in Oudomxay, Xieng Khuang, Savannakhet, Champassak and Vientiane provinces.

The national census conducted in 2005 identified 80,000 people with a disability in Laos. The World Health Organisation estimates that 10 percent of the population is disabled.

(記事の概要)

記事の見出し:障害児への支援は更に必要

内容:ACDAの活動内容紹介と当会の事業内容の説明。ラオスの障害児の人数などと共に車椅子の重要性を述べているが、更なる支援が必要と訴えている。